

8. 経済学研究科

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 24)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 25)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- グラスゴー大学（英国）、バルセロナ大学（スペイン）、ゲッティンゲン大学（ドイツ）、エラスムス・ロッテルダム大学（オランダ）の欧州4大学が構成する「GLOCAL コンソーシウム」と協力関係を結び、同コンソーシウムが設置した国際共同修士学位プログラム（Global Markets, Local Creativities, 略称”GLOCAL”）に対し教育提供を行っている。このプログラムにおいて京都大学での3か月の学修を含む学修経路（Pathway D）を選択した学生は、グラスゴー大学とバルセロナ大学の両大学から学位を授与される（ダブル・ディグリー）。
- 東アジアコースを核に、平成26年に文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」事業に採択された京都大学の「ジャパングートウェイ構想」の下で、人文社会科学系サブユニットによる海外8大学との双方向型国際連携大学院プログラム「The Asian Platform for Global Sustainability & Transcultural Studies (AGST)」を主幹部局として立ち上げ、国際的通用性の高い大学院教育の拡充を推進している。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 高い質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

平成 29 年度及び平成 30 年度の博士後期課程学生の研究成果は、両年度合計で、学会発表件数 143 件、論文発表数 81 件等となっている。また、修了生及び修了生就職先へのアンケートでは、ディプロマ・ポリシーで重視されている能力が身に付いた又はまあまあ身に付いたと回答した者が各項目で 76.5%以上となっている。

〔優れた点〕

- 平成 29、平成 30 年度の博士後期課程在籍者による研究成果としては、両年度合計で、学会発表件数 143 件（内、海外 35 件）、論文発表数 81 件（内、英語論文 20 件、査読付き論文 62 件、査読付き英語論文 19 件）、回答者一人当たり年間平均で、学会発表件数 1.4 件（内、海外 0.3 件）、論文発表数 0.8 件（内、英語論文 0.2 件、査読付き論文 0.6 件、査読付き英語論文 0.2 件）となっている。

〔特色ある点〕

- 平成 30 年度修了時アンケートによれば、ディプロマ・ポリシーで重視している①「専門知識」、②「研究能力」、③「高度な専門性を必要とする職業を担うための能力」、④「高い倫理性と強い責任感をもって研究を行う姿勢」、⑤「人や自然との共生にかなった研究を行う姿勢」について、それぞれ、修了生の 94.1%、94.1%、76.5%、91.2%、76.5%が「身についた」、「まあまあ身についた」と回答しており、ディプロマ・ポリシーに沿った能力が養成されていることが確認できる。